

## JOMF 派遣医師便り (2015. 1)

### ◆マニラ◆

#### 羽生結弦選手、気管支喘息にも負けず

マニラ日本人会診療所

菊地 宏久

数々の世界のタイトルを取っているフィギアスケーター羽生結弦選手ですが彼にはスポーツ選手としては大きな障害となる気管支喘息があるということをメディアを通して知りました。スケートで世界を制覇したことはもちろん素晴らしいことですが、2歳のころから頻回に起こる気管支喘息発作にも負けず、スケートの練習を4歳から継続してきた努力は何よりもすばらしいことだと思います。今日は羽生選手も悩ませている小児気管支喘息について考えてみます。

救急対応が整っている日本でさえ、厚生労働省の統計によれば今でも毎年2000人前後が気管支喘息発作により死亡しています。

小児の気管支喘息は気管支の慢性炎症が本態で、多くがアレルギー現象であると考えられています。炎症が増悪すると発作症状が出てきますが、発作がない時でも炎症をできるだけ鎮めて、発作のない状態を長期に続けていくことが大切だと考えられています。炎症を増悪させ発作を誘発させる原因としてはダニ、カビ、犬や猫の毛、花粉、そしてタバコの煙や大気汚染・排気ガス、精神的ストレスなどが考えられています。

日本からマニラに来てから喘息発作が少なくなった患者さんもおられますが、逆に日本にいた時よりも発作が頻回に起こるようになった患者さんもいらっしゃいます。マニラに来てから病態が悪化している患者さんの多くはエアコンのカビやマニラの大気汚染・排気ガスが関与していることが想定されます。患者さんごとに誘発させる原因を特定しアレルギーから遠ざけることが理想です。

羽生選手はソチ五輪では19歳69日という史上2番目の若さで金メダルを取りました。仙台出身で高校1年生だった2011年3月、東日本大震災で被災した若者が自分の苦しさを乗り越えて日本中に感動と勇気を与えてくれました。しかしそれまでの道のりは、他の選手にはない「呼吸のつらさ、喘息による練習強度と時間の制限」との戦いであつたろうと思います。五輪演技では、ひざまづくフィニッシュポーズのまま、息が苦しく立ち上がれなかったり、絶え絶えになる呼吸を整えながら心臓を、胸を両手で押さえていたこともあつたそうです。

「今でも競技中に発作が起こるときがありますが、それをカバーできるように練習を続けています」、彼の力強い言葉です。今も薬を飲み続け、吸入薬も手放せないそうです。その努力と辛さは言葉には表せないほどであろうと思います。

羽生選手の努力をこれからも応援したいと思っています。